

1 研究主題

小学1年生を対象とした拗音表記の読み書き習得に向けた授業づくりと個別指導
 —MIMテストから得たデータ分析を指導に活かす—

善通寺市立竜川小学校 教諭 白川 永子

2 研究の具体

(1) 目的

小学校1年生の段階で仮名文字の読み書きに困難のある児童は、拗音を含む特殊拍表記で誤りやすく、適切な指導がなされないと獲得が不十分なまま学年があがっていくことがある。早期の正しい文字習得は、子どもたちの学習面の成長を支えるために重要である。そこで、つまずきやすい拗音表記の読み書きの習得を促す授業づくりを工夫するため、多層指導モデルMIMの指導パッケージにあるテストを継続して行い、データ分析により児童のつまずきを推定し、個別指導に活かす活動を行った。

(2) 方法

↺	国語科授業の内容↺	MIMテスト↺	個別指導の内容↺
4月↺	ひらがな清音↺	↺	↺
5月↺	ひらがな清音、濁音・半濁音↺	1回目↺	↺
6月↺	ひらがな長音、拗音、拗長音↺	2回目↺	ひらがな清音、濁音・半濁音の読み↺
7月↺	カタカナ↺	3回目↺	↺ ↓
9月↺	漢字↺	↺	↺
10月↺	↺	↺	ひらがな長音・拗音の読み書き↺
11月↺	↺	4回目↺	↺ ↓

個別指導の具体
 【清音、濁音・半濁音の読み】
 音読の宿題を「ひらがなカード」に変えた。
 【長音・拗音の読み書き】
 MIMの3択カードや、拗音の組み合わせ課題を行った。

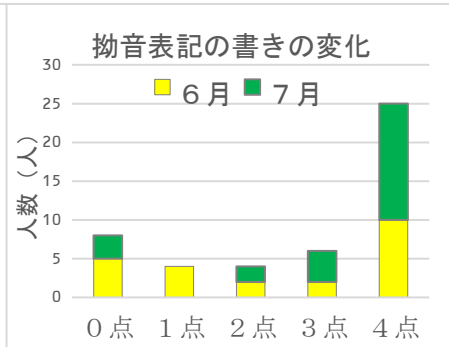
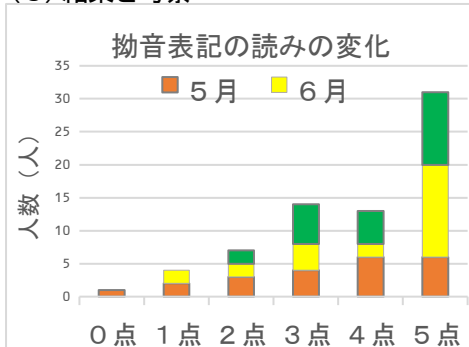
【拗音表記の読みの授業づくり】

①MIMの拗音三角シートを活用して混成規則を指導した。②拗音を発音した後の口形に着目させ、「や」は「あ」、「ゆ」は「う」、「よ」は「お」の口形であることに気付かせた。③発音をするときは、「あ」「う」「お」の口形と音が残るように口を動かすこととゆっくり発音をすることを意識させ、音読練習をした。

【拗音表記の書きの授業づくり】

拗音表記を書かせる前に、拗音表記のイ段文字（大きく書く文字）とヤ行文字（“や” “ゆ” “よ”）の組み合わせ課題を行うことで、間違いやすいヤ行文字の選択に集中できるようにした。考える際には、必ず拗音を伸ばして発音をさせ、「あ」「う」「お」の口形や音を確認させた。

(3) 結果と考察



- 読みの誤答例
- ・かぼちや⇒かばちや
 - ・ちやわん⇒ちちゃんわ
- 書きの誤答例
- ・おちや⇒おちよ
 - ・きゅうり⇒きうり
 - ・しょうゆ⇒おようゆ
 - ・ぎょうぎ⇒じょうぎ

1学期末に、拗音表記を全く読めない児童はいなくなった。読みが2点の児童の誤答分析をすると、拗音表記以外の誤りが多かった。一方で、拗音表記を書くことが0点の児童が3名いた。誤答分析をすると、混成した音と表記の一致がしにくいこと、発音が誤っていたり発音が不明瞭であったりすることが原因と考えた。

そこで2学期は、正しい発音と正しい表記の習得のために、授業の始めにMIM3択カードを活用した。混成した音と表記が一致しにくい児童に対して、放課後に個別指導を行った。その結果、拗音表記の読み書き共に8割の児童が満点となり、0点の児童はいなくなった。全体として、成績の二極化が進んだ様相を呈した。

3 今後の課題

拗音表記の誤り方を分析することで、個々の成長が確認できた。今後も誤り方に即した適切な個別指導をすることで、1年生の間に拗音表記の習得を図りたい。

引用文献：海津亜希子(2010). 多層指導モデルMIM 読み書きのアセスメント・指導パッケージ. 学研.